

(様式－１ 表紙)

1 調査名称

平成２６年度 名張市都市総合交通戦略調査業務

2 調査主体

名張市

3 調査圏域

名張市全域

4 調査期間

平成２６年８月８日～平成２７年３月２０日

5 調査概要

平成２３年度に策定した「名張市総合都市交通マスタープラン」において、道路整備や公共交通に関する総合的な方針の検討を進め、平成２４年度から平成２５年度には、都市計画道路の見直し検討、バス停留所等の改善検討、自転車利用環境の整備形態など、個別交通モード別の検討を実施してきたところである。

これらを踏まえ、平成２６年度においては、個別交通モードにおける具体的施策を抽出するとともに、平成２３年度に策定した「名張市総合都市交通マスタープラン」の基本目標別に目標達成により市民等へもたらされる効果（アウトカム）を設定し、目標達成に必要な各種ハード整備及びソフト施策が効果的に組み合わせられた施策パッケージ案を整理するものである。

そして、平成２７年度には、名張市が目指す集約連携型都市の実現に向け、重点的かつ優先的な施策・事業の実施が必要な重点プロジェクトを設定するとともに、アクションプログラム（事業計画）の策定を予定している。

(様式－2 a 調査概要)

I 調査概要

1 調査名

平成26年度 名張市都市総合交通戦略調査業務

2 報告書目次

1. 道路関連施策の検討

- 1) 都市計画道路の変更手続きの支援
- 2) 道路整備プログラムの作成
- 3) 都市交通誘導施策の検討

2. バス関連施策の検討

- 1) 公共交通施設整備計画の作成
- 2) 公共交通利用促進策の検討

3. 自転車関連施策の検討

- 1) 自転車利用環境整備計画の策定
- 2) 自転車利用促進策の検討

4. 戦略プランの検討

- 1) 主要施策の概要整理
- 2) アウトカムの設定
- 3) 施策パッケージの策定

(様式－２b 調査概要)

3 調査体制

委員会等の設置なし

4 委員会名簿等

(様式－３ a 調査成果)

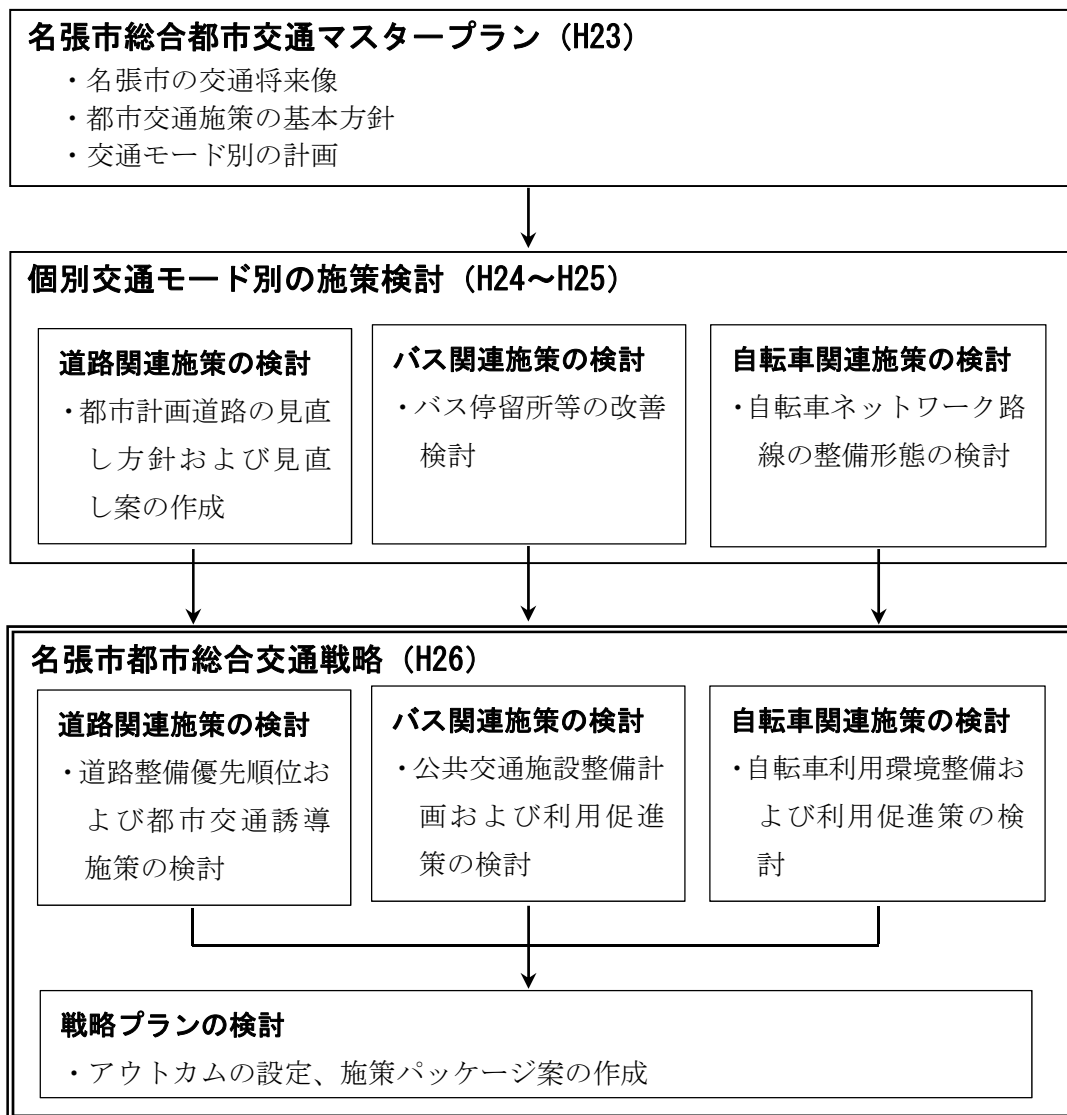
II 調査成果

1 調査目的

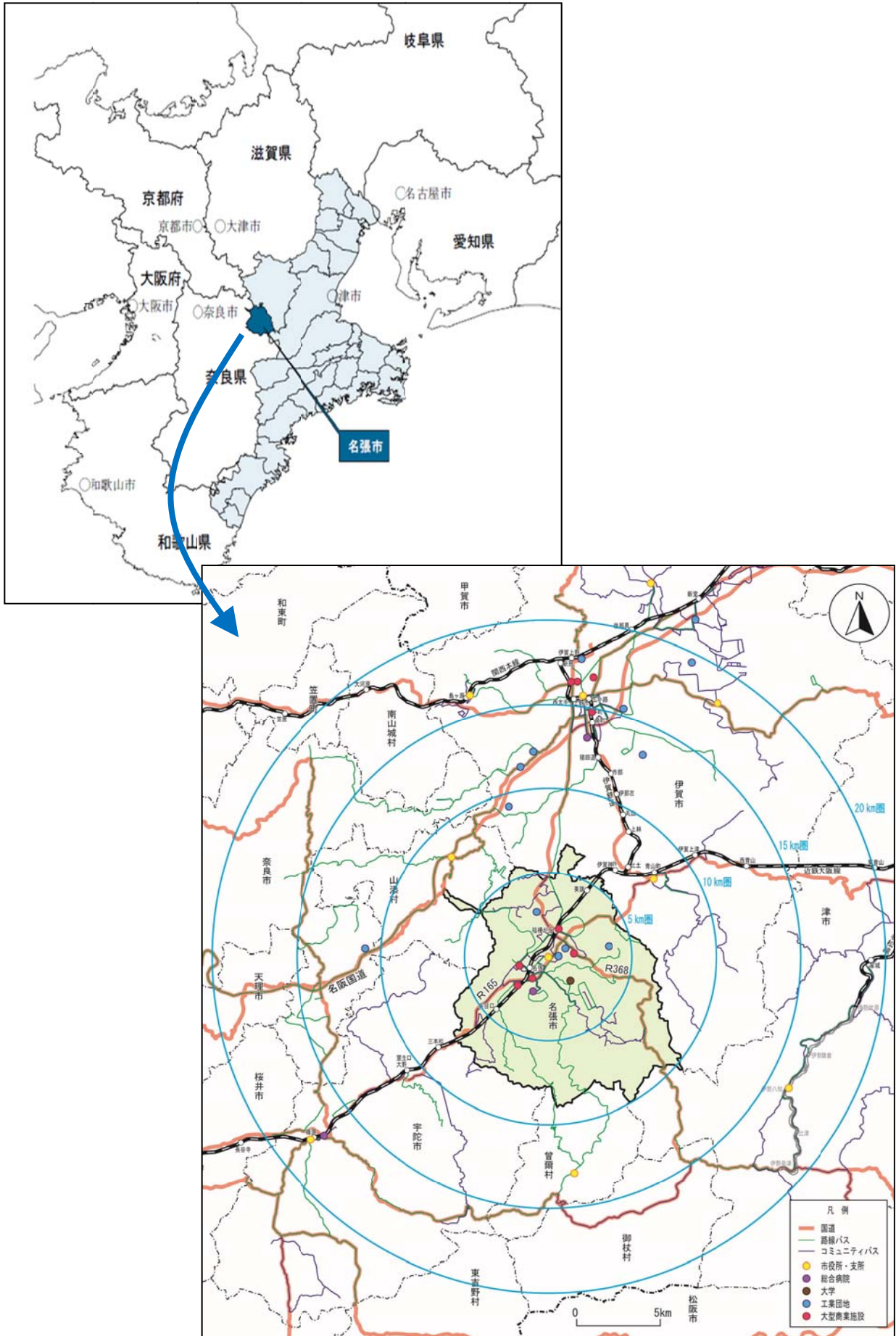
平成23年度に策定した「名張市総合都市交通マスタープラン」において、道路整備や公共交通に関する総合的な方針の検討を進め、平成24年度から平成25年度には、都市計画道路の見直し検討、バス停留所等の改善検討、自転車利用環境の整備形態など、個別交通モード別の検討を実施してきたところである。

これらを踏まえ、平成26年度においては、個別交通モードにおける具体的施策を抽出するとともに、平成23年度に策定した「名張市総合都市交通マスタープラン」の基本目標別に目標達成により市民等へもたらされる効果（アウトカム）を設定し、目標達成に必要な各種ハード整備及びソフト施策が効果的に組み合わせられた施策パッケージ案を整理することを目的としている。

2 調査フロー



3 調査圏域図



(様式－3b 調査成果)

4 調査成果

1) 道路関連施策の検討

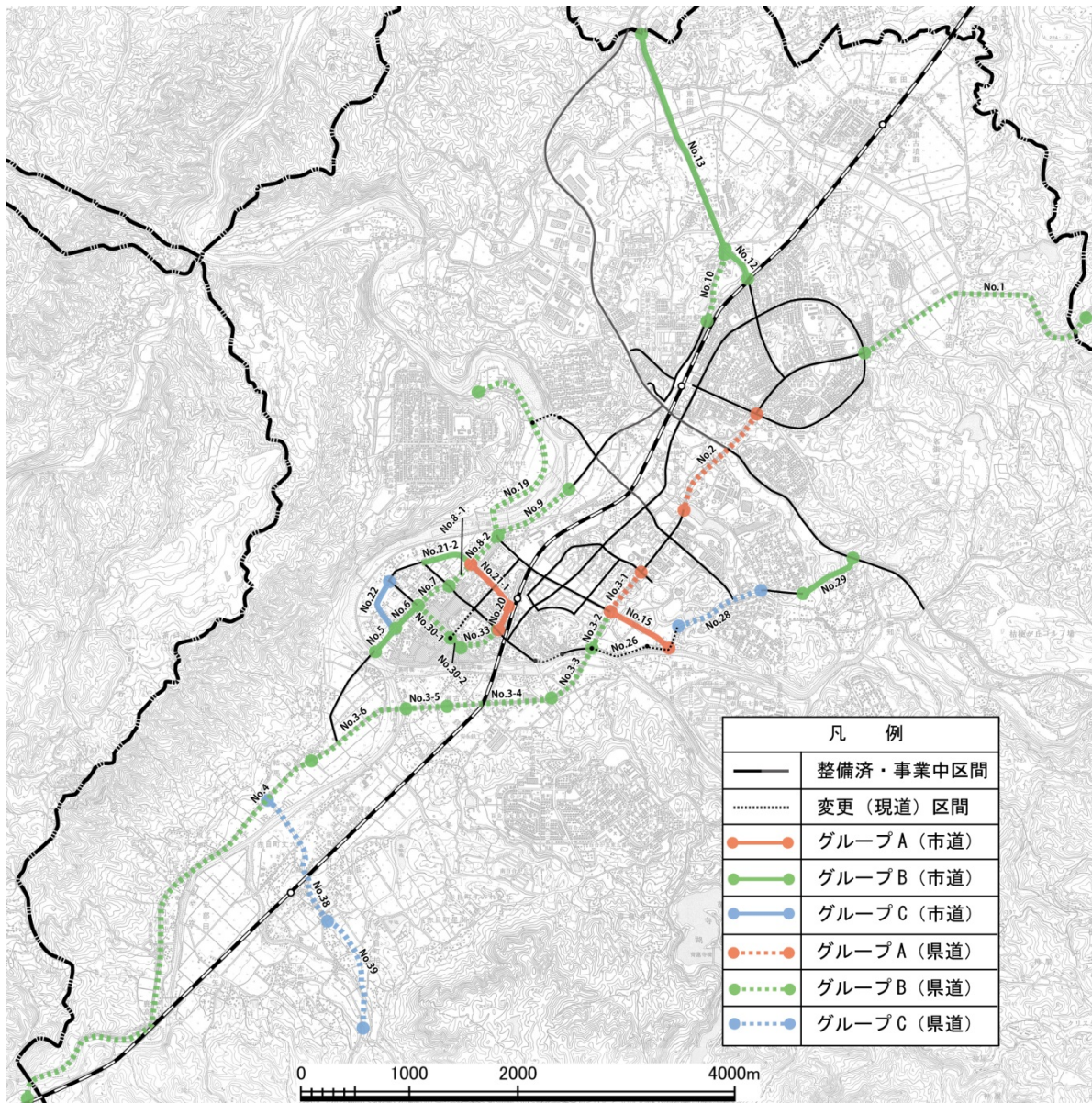
①道路整備プログラムの検討

現行都市計画道路の整備済・事業中区分及び都市計画道路の見直し方針において評価結果が廃止または変更（現道）とした区間を除く 8 路線 31 区間を検討対象としました。

道路整備プログラムの検討は、将来幹線道路網計画、公共交通体系計画、自転車・歩行者計画における施策の基本方針に対応した定性的指標、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少の便益に係る定量的指標に基づく総合評価を実施した上で、区間別評価得点を相対比較することで整備優先度を設定しました。

個別路線の整備時期は、他事業関連との整合、ネットワークの連続性、費用便益比から見た効率性、地元・関係機関等との調整、投資可能額から見た事業の実現性等の総合的な視点より設定するものとしています。

図 整備優先度ランクの設定



②都市交通誘導施策の検討

(1) TDM関連

短期的な道路整備による交通環境の大幅な改善が望めない状況下において、円滑な交通環境を確保するためには、自動車交通需要そのものを抑制する必要があります。その手法の1つとして、TDM（交通需要管理）の計画的な実施を推進します。

人口減少・少子高齢社会の進展や生活様式の変容など多様化する交通需要に対して、新たな施設整備のみで対応するのではなく、既存の交通施設を効率的に運用するため、交通需要そのものを誘導する交通需要管理（TDM）を、下表に挙げる施策例を参考に、本市の道路や公共交通の整備状況、通勤、通学などの流動実態を踏まえた上で実施可能な施策を選択し、市民、地域、交通事業者、企業及び行政の協働により計画的に推進する必要があります。

表 都市交通の誘導施策例（TDM）

分類	方策	施策
適切な交通手段への誘導	公共交通の利用促進	パーク＆ライド、サイクル&バスライド、バスロケーションシステム等
	自転車利用の促進	自転車道ネットワーク、レンタサイクル等
交通需要の効率化	自動車利用の仕方の工夫	相乗り、ノーマイカーデー等
	交通需要の低減・平準化	時差出勤、フレックスタイム等
適切な自動車利用の誘導	自動車交通の規制・誘導	ゾーンシステム・トラフィックセルシステム、トランジットモール等
	駐車政策による誘導	フリンジパーキング、駐車料金のコントロール等

(2) MM関連

短期的な道路整備による交通環境の大幅な改善が望めない状況下において、円滑な交通環境を確保するためには、自動車交通需要そのものを抑制する必要があります。その手法の1つとして、MM（モビリティ・マネジメント）の計画的な実施を推進します。

過度な自動車利用から公共交通、自転車など、一人ひとりの自発的な交通行動の変容を促すため、コミュニケーション手法を活用したモビリティ・マネジメント（MM）を計画的に進める必要があります。

表 都市交通の誘導施策例（MM）

分類	方策	施策
住民を対象としたMM	TFP（トラベル・フィードバック・プログラム）による交通行動の変容促進	特定地域の住民・世帯を対象としたコミュニケーション・プログラムの実施、交通まちづくり講座の開催等
通勤者を対象としたMM	通勤手段・行動の変更	PULL施策（表彰、有給休暇の追加、通勤手当の優遇等）、PUSH施策（駐車場の有料化等）の実施

2) 公共交通関連施策の検討

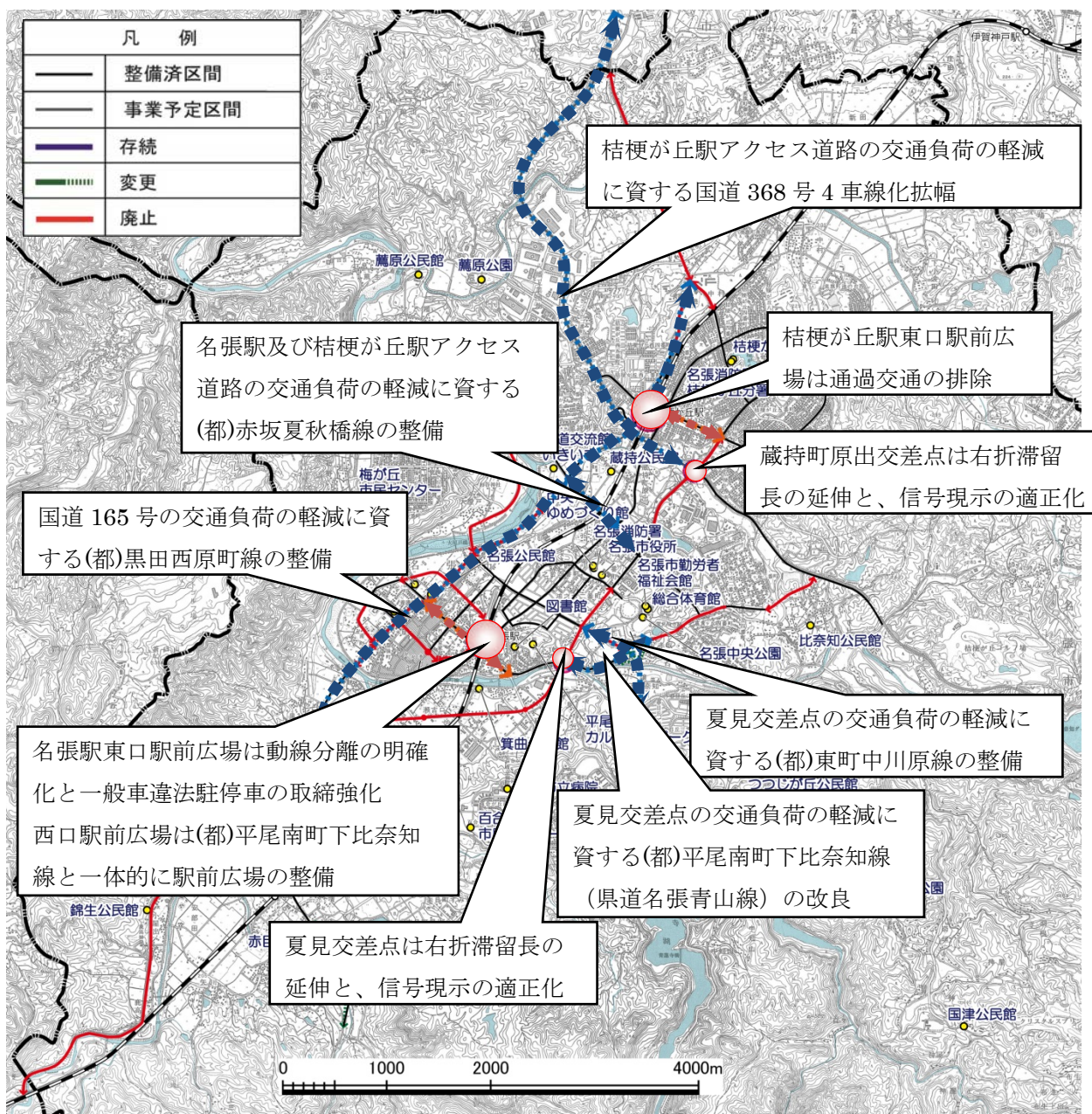
①バス運行問題箇所への対策（バス定時性の確保に資する主要渋滞交差点の緩和・解消）

平成 25 年度に実施したバス交通事業者アンケートより道路交通に関するバス運行上の問題点は、バスルートでは名張駅及び桔梗が丘駅周辺道路と国道 165 号に関連する夏見交差点及び蔵持町原出交差点を抽出しました。

バス定時性の確保に向けては、国道 165 号等の主要な幹線道路の交通負荷の軽減に資する(都)黒田西原町線、(都)平尾南町下比奈知線（県道名張青山線）、(都)東町中川原線の整備や国道 368 号の交通容量の強化に資する 4 車線化拡幅が求められています。

また、主要な渋滞交差点として挙げられる夏見交差点及び蔵持町原出交差点では、交通需要に対応した右折滞留長の延伸等交差点の改良や、適正な信号現示の見直しが求められています。

図 バス運行問題箇所への対策案



②公共交通利用促進策の検討

持続可能な公共交通を確保・維持するためには、減少する公共交通利用者を増進させる必要があります。また、道路渋滞を緩和するために自動車交通需要そのものを削減する公共交通利用への転換を図る必要があります。

そのためには、公共交通利用者にはより利用しやすく、未利用者には利用が可能となるよう、ニーズを踏まえた様々な利用促進策を検討・実施する必要があります。

➤ 分かりやすく、利用しやすいサービスの提供

- ・総合案内板、バス停表示等の整備、バスマップの作成
- ・乗継情報の提供（交通結節点、車内）
- ・ホームページ等による情報・案内の提供
- ・バス車両の改善（ノンステップバス等低床車両の導入、バス車両の変更（座席数の増加）など）

図 ノンステップバス



資料：三重交通 HP

➤ 利用促進を誘導する施策の展開

- ・乗継拠点における待ち合い環境（ベンチ、トイレ等）、駐車場・駐輪場等の整備
- ・乗継拠点施設及びアクセス経路等におけるバリアフリー化
- ・運賃体系の見直し、特別割引等の実施
- ・公共交通を利用した観光・イベントとのタイアップ
- ・高齢者の免許返納に対し、民営交通事業者の取組を周知するとともに、公共交通の利用促進に資する取組を検討

図 乗継拠点整備のイメージ



資料：富山市

➤ バスの愛着を高める方策の展開

- ・市民が愛着を持てるネーミングや車両デザイン
- ・バス利用促進に関するイベント・キャンペーン等の開催

➤ その他

- ・バス定時性の確保に資する道路整備・交差点改良
- ・道路空間におけるバス優先施策の展開（バスレーン、バス優先信号等）
- ・パークアンドライド用駐車場の確保

図 バスレーン・PTPS



資料：国土交通省

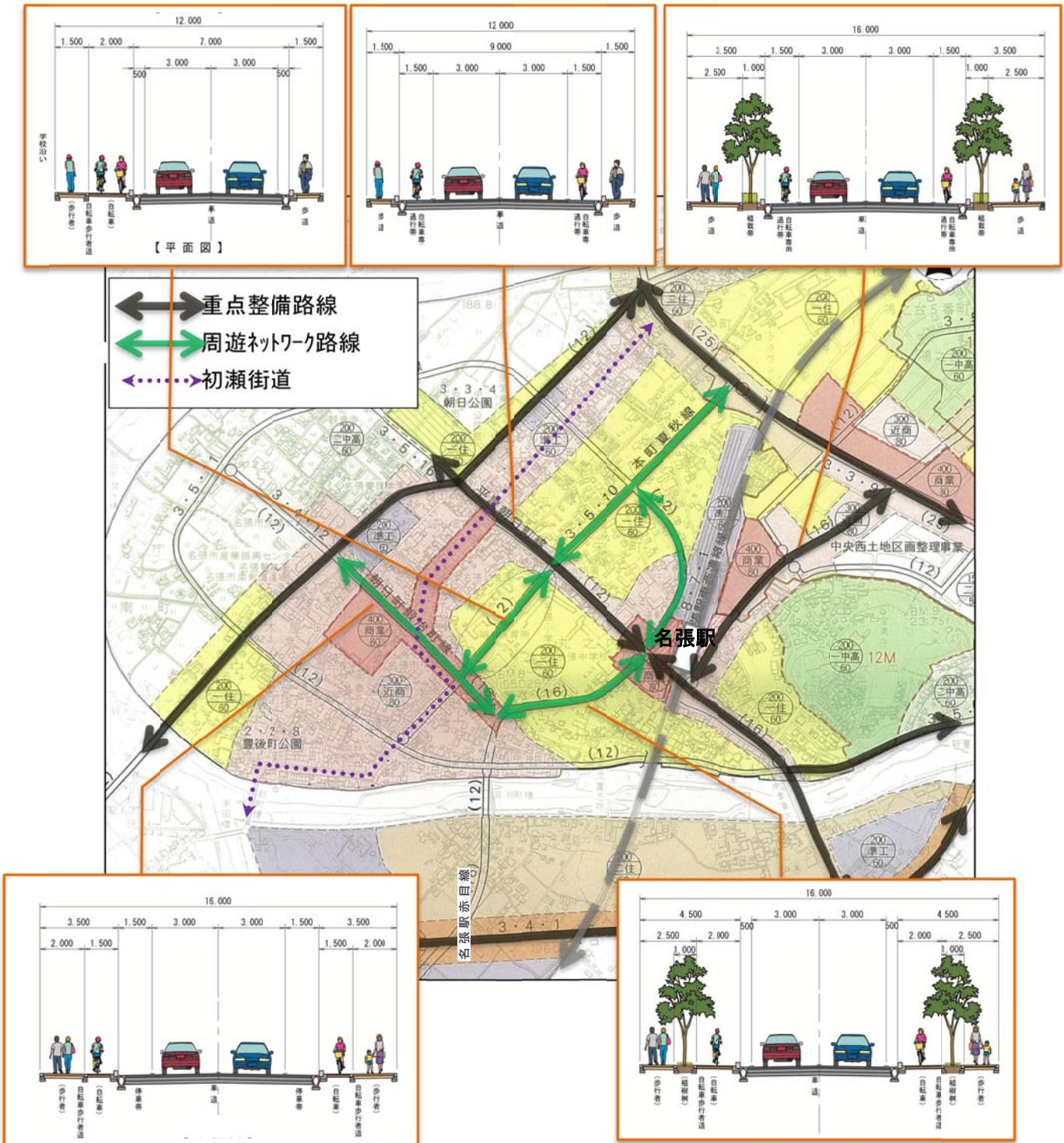
3) 自転車・歩行者関連施策の検討

①名張駅周辺地区における自転車整備計画

名張駅周辺地区は、都市マスタープランにおいて市街地拠点（都市交流拠点）として旧市街地の歴史的まちなみを保全・活用する中で、徒歩や自転車による移動を中心ににぎわいを創出するエリアとして位置づけています。このまちづくりを実現するためには、名張駅周辺地区を自転車利用環境整備の重点地区として位置づけます。

また、名張駅周辺地区においては、日常的な生活に対応した買物動線としての自転車ネットワークに加え、観光目的に対応した周遊ネットワーク路線に考慮し、自転車整備計画を検討します。

図 名張地区における自転車利用環境整備計画案



②自転車利用促進策の検討

魅力ある自転車利用空間の創出にあたっては、名張の歴史、文化、自然などの地域資源の活用やまちづくりとの連携を深め、自転車を安心・安全かつ利用したくなる施策の展開を図ります。

<自転車を利用したくなる施策例>

- ・安全で質の高い空間（舗装、植栽、照明等）の整備
- ・サイクリングロードの整備
- ・電車やバスとの連携（自転車の持ち込み等）
- ・休憩施設（ベンチ、トイレ等）の整備
- ・バリアフリー整備（幅員の確保、段差の解消等）
- ・サイン計画、情報・案内板の整備、サイクリングマップ等の作成
- ・歴史、文化、自然などの地域資源の活用やまちづくりとの連携によるイベント開催等
- ・乗り換えや保管のための駐輪場、レンタサイクル施設の整備
- ・モビリティ・マネジメントの実施、交通安全教室等の開催

図 自転車利用促進施策の例

<鉄道との連携>



資料：えちぜん鉄道

<バス停と連携した駐輪場>



資料：宇都宮市

<サイクリングマップ>



資料：名張市

<サイクリングマップ>



資料：京都e c oトリップ

<C & B R案内看板>



資料：関東自動車

<交通安全教室>



資料：豊橋市

4) 戦略プランの検討

① 施策パッケージ案の作成

前項で設定したアウトカムの発現に必要な各種ハード整備・ソフト施策が効果的かつ効率的に組み合わせられた施策パッケージ案を構成、整理します。

基本目標 1 : ひとにやさしい交通まちづくり

○これからは…

- ・ まちなかでは、既存道路空間の活用等により、安心・安全な移動環境の確保や、快適な自転車・歩行者ネットワークを形成
- ・ バスを軸とした体系的な公共交通ネットワークを形成するとともに、誰もが分かりやすく、利用しやすい公共交通環境を創出
- ・ 市民、交通事業者及び行政が一体となった取組により、地域ニーズに応じた持続可能な公共交通を支える仕組みを構築

< 施策の整理 >

公共交通体系計画

- まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの形成
 - ・ まちづくりと連携した面的なバスネットワークの再編
 - ・ 路線機能の明確化と機能に応じたサービス水準の確保
 - ・ 乗継拠点の整備
- 人と環境にやさしい公共交通環境の整備
 - ・ 定時性の確保、乗り継ぎに配慮したダイヤ設定
 - ・ 利用者に分かりやすい情報・案内の提供
 - ・ ノンステップバスなどの低床車両の導入
- 地域住民の生活行動パターンに応じた公共交通サービスの提供
 - ・ 地域が主体となった地域生活交通システムの検討
 - ・ コミュニティバス運行補助金による支援
 - ・ 美旗地域、赤目地域でのコミュニティバス導入

自転車・歩行者計画

- 自転車・歩行者ネットワークの形成
 - ・ 市街地拠点における日常生活行動に対応した自転車・歩行者ネットワークの形成
 - ・ 観光・交流を目的としたレクリエーション系自転車・歩行者ネットワークの形成
- 安心・安全な移動環境の確保
 - ・ 通学路安全対策の検討、実施
 - ・ ガイドラインに基づく整備形態の分類、整備形態に応じた空間確保、
 - ・ 段差解消などのバリアフリー化
 - ・ 交通安全の確保に係る交通施設の整備・充実
 - ・ 国道 165 号、県道上野名張線などの歩道整備
 - ・ 交通安全対策事業（交通安全啓発活動の実施、参加体験型研修の推進）

交通まちづくりのための行動計画

- 公共交通を皆で支える意識の醸成
 - ・ 地域づくりと一体となった公共交通の愛着（マイバス意識）を高める施策の展開
- TDM の実施による都市交通の誘導
 - ・ 公共交通の利用促進（パーク&ライド、サイクル&バスライドの推進、情報・案内の提供など）
 - ・ 自転車利用の促進（自転車ネットワークの形成、レンタサイクルの充実など）
- MM の実施による過度な自動車利用の抑制
 - ・ 住民、企業及び学校教育における MM の実施
 - ・ 交通マナーの向上に資する意識啓発

○期待される効果

- 市内の公共交通利用環境が改善され、誰もがわかりやすく、利用しやすい公共交通サービスが確保されます。
- 市街地拠点等での安心・安全な自転車・歩行者空間が確保されます。

基本目標 2 : 都市と地域の発展を支える交通まちづくり

○これからは…

- ・広域交通体系へのアクセス利便性の向上により、近畿圏や中部圏との産業・観光・交流を促進
- ・市街地拠点へのアクセス利便性の向上により、集約連携型都市構造の構築を支援・誘導
- ・幹線道路網の整備及びネットワーク形成により、自動車・バスによる円滑な移動、自転車・徒歩による安心・安全な移動が可能
- ・名張の歴史・文化・自然を活かした歩きたくなる魅力の創出

<施策の整理>

幹線道路網計画

- **広域交通軸の整備**
 - ・広域交通体系へのアクセス軸となる高規格な道路の整備
 - ・国道 165 号の機能強化及び関連道路の整備・充実
 - ・災害に強い幹線道路ネットワークの形成
 - ・国道 368 号の 4 車線化拡幅
- **東西・南北の都市交通軸の整備**
 - ・都市軸として機能する国道 165 号の整備
 - ・物流、観光、交流の軸となる国道 368 号の整備
- **市内交通軸の整備**
 - ・国道 165 号を補完する(都)黒田西原町線の機能強化
 - ・都市幹線道路に位置づけられる都市計画道路などの未整備区間の整備・改良
- **都市計画道路の見直し**
 - ・都市計画道路の見直し方針に基づく変更手続きの実施
- **道路整備プログラムの作成**
 - ・道路整備プログラムに基づく整備優先順位の設定・調整
- **バス定時性を確保する道路整備・改良**
 - ・(都)黒田西原町線、(都)平尾南町下比奈知線、東町中川原線の整備および国道 368 号の 4 車線拡幅
 - ・夏見交差点および蔵持町原出交差点の改良検討および信号現示の適正化

自転車・歩行者計画

- **自転車・歩行者ネットワークの形成**
 - ・市街地拠点における日常生活行動に対応した自転車・歩行者ネットワークの形成
 - ・観光・交流を目的としたレクリエーション系自転車・歩行者ネットワークの形成
- **魅力ある自転車・歩行者空間の創出**
 - ・質の高い空間および休憩施設、交流の場の整備
 - ・乗り換えや保管のための駐輪場、レンタサイクルの充実
 - ・サイン計画、情報・案内板などの整備
 - ・歴史、文化、自然などの地域資源や観光資源の活用やまちづくりとの連携によるイベント開催など
 - ・ウォーキングマップの作成(おきつも名張遊歩 10 選ウォーキング)、ウォーキングイベントの開催

公共交通体系計画

- **まちづくりと一体となった公共交通ネットワークの形成**
 - ・まちづくりと連携した面的なバスネットワークの再編
 - ・路線機能の明確化と機能に応じたサービス水準の確保
 - ・乗継拠点の整備
- **鉄道駅、主要バス停における交通結節機能の強化**
 - ・乗継環境の整備とバリアフリー化による利便性の確保
- **名張駅および桔梗が丘駅における円滑かつ安全な広場機能の確保**
 - ・動線分離の明確化(通過交通の排除)、一般車駐停車の排除(違法駐車取締)、名張駅西口駅前広場の整備

交通まちづくりのための行動計画

- **TDMの実施による都市交通の誘導**
 - ・交通需要の低減・平準化(時差出勤、フレックスタイムの実施など)

○期待される効果

- 産業活動を支える自動車の移動が円滑になり、目的地までの所要時間が短縮されます。
- 市街地拠点へのアクセスが便利になり、来訪頻度が増加します。
- 市街地拠点での回遊性が高まり、にぎわいが創出されます。

基本目標 3 : 環境に配慮した持続可能な交通まちづくり

○これからは…

- ・効率的な自動車利用、公共交通や自転車の利用促進など、環境や健康に配慮した取組を実施
- ・過度な自動車交通への依存から脱却し、かしこく自動車を利用するライフスタイルや、公共交通を皆で支える意識を醸成

<施策の整理>

公共交通体系計画

- 人と環境にやさしい公共交通環境の整備
 - ・低炭素型車両の導入

交通まちづくりのための行動計画

- TDM の実施による都市交通の誘導
 - ・自動車利用の仕方の工夫（相乗り、ノーマイカーデーなど）や交通需要の低減・平準化（時差出勤など）
 - ・公共交通の利用促進（公共交通サービスの向上など）
 - ・自転車利用の促進（自転車ネットワークの形成、レンタサイクルの充実など）
- MM の実施による過度な自動車利用の抑制
 - ・住民、企業及び学校教育における MM の実施
 - ・交通マナーの向上に資する意識啓発
- 低炭素型まちづくりの推進
 - ・自動車利用の抑制、エコドライブの推進

○期待される効果

- 市民の自発的な交通行動の変容により、自動車から公共交通や自転車・徒歩への転換が促進し、環境にやさしいまちになります。

基本目標 4 : 災害に強い安心・安全な交通まちづくり

○これからは…

- ・ 緊急輸送道路や避難路が確保された災害に強い交通体系を構築
- ・ 安心・安全な移動環境の確保による防災機能の強化

<施策の整理>

幹線道路網計画

➤ 緊急輸送網及び避難路の整備

- ・ 災害に強い緊急輸送道路ネットワークの充実
- ・ 道路構造の耐震性の確保
- ・ 避難路などにおける道路機能の確保と整備・改善

○期待される効果

- 緊急輸送道路や避難路が確保され、災害に対する安心感が向上します。